

第4編　山根Ⅲ遺跡Ⅲ

第1章 既往の調査

これまで山根Ⅲ遺跡では、町教委、事業団によって7回の調査が実施されている。町教委が4回（第197図1～4、第27表）、事業団が3回（同図A・B・C、同表）である。今回の発掘調査は、町教委が実施した第3次調査の町営横壁土地改良事業に伴い実施した試掘調査を受けての本調査である。

町教委は平成16年度から発掘調査を行なっている。第1～2次調査は個人住宅建設に伴い実施した試掘調査である。第1・2次調査では遺物・遺物は確認されなかった。いずれも地山がローム層ではなく礫層ないし礫混土であり、深沢の氾濫や山押によるものと推定されている。第3次調査では、陥し穴や土坑など縄文・平安時代の遺構が確認された。第4次は農業経営近代化施設の建設に伴い実施された。本調査区の隣接地の調査であり、陥し穴や土坑など縄文・平安時代の遺構が確認された。

事業団は平成10・13・18年度にハッカダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施している。平成10年度は横壁地区内町道拡幅・深沢橋橋台建設工事に際して実施され（A地点）、縄文時代中期後半（曾利II式～曾利IV式）の竪穴住居跡などが確認されている。平成13年度は国道145号線建設工事に際して実施され（B地点）、縄文時代中期後半（曾利II式～曾利IV式）の竪穴住居跡などが確認されている。平成18年度は国道145号線建設工事に際して実施され、今回の発掘調査区と隣接する（C地点）。縄文時代中期後半（加曾利E III式・E式併行）の竪穴住居跡などが確認されている。

第27表 山根Ⅲ遺跡調査一覧（文献番号は序説末の参考文献参照）

番号	調査年度	調査原因 ／調査種類	調査機関	調査面積 （開発面積）	概要		備考
					（開発面積）		
1	平成16年度	個人住宅建設 ／試掘調査	長野原町教育委員会	10m ² (1,936.74m ²)	遺構なし 地盤がローム混凝層		文献16
2	平成17年度	個人住宅建設 ／試掘調査	長野原町教育委員会	10m ² (1,282m ²)	遺構なし 地山が剛柔色礫混土（巨礫多含）		文献17
3	平成29年度	町営横壁 土地改良事業 ／試掘調査	長野原町教育委員会	276.0m ² (77,470.50m ²)	（縄文・平安）土坑、陥し穴等		文献36
4	平成31年度	農業経営近代化 施設建設 ／発掘調査	長野原町教育委員会	700m ² (1,000m ²)	（縄文・平安）土坑、陥し穴等		—
A	平成10年度	町道拡幅・深 沢橋橋台建設 ／発掘調査	（財）群馬県埋蔵 文化財調査事業団	2,032m ² (—m ²)	（縄文）中期後半住居跡1軒、中期土坑4基、中期包含層： （不明）土坑13基； （遺構）縄文石窓、弥生土器、践鉢、小刀		文献105
B	平成13年度	国道145 号線建設 ／発掘調査	（財）群馬県埋蔵 文化財調査事業団	1,180m ² (—m ²)	（縄文）中期後半住居跡3軒、土坑28基； （縄文・弥生）縄文早期前半・弥生中期前半包含層： （古代～中・近世）土坑4基； （近世以降）土坑5基、溝1条		文献119・175
C	平成18年度	（同上） ／発掘調査	（財）群馬県埋蔵 文化財調査事業団				

第2章 調査の経過

発掘調査は、平成30年8月28日から開始し、同年12月18日に終了した。調査区内で打って返しによる表土掘削を行うため、便宜上、広範囲の調査区を北から南に向かって①～⑥区に区分した（第199図）。

8月28日、①区の表土掘削を開始する。8月30日、町教委と架空線の取り扱いについて打合せを行う。

9月3日、⑤区の表土掘削を開始する。9月6日、①・④・⑤区の空中写真撮影、測量を実施し、調査を終了する。

9月12日、⑥-1区の表土掘削を開始する。9月19日、③-1・④-1区の表土掘削を開始する。⑥-1区の遺構掘削作業を開始する。9月28日、③-1・④-1区の遺構掘削作業を開始する。

10月4日、⑥-1区の空中写真撮影、測量を実施し、⑥-1区の調査を終了する。10月10日、⑤-2区の表土掘削を開始する。③-1・④-1区、⑤-2区の空中写真撮影を実施する。10月15日、③-1・④-1区、⑤-2区の測量を実施し、調査を終了する。10月16日、⑥-2区の表土掘削を開始する。10月24日、④-2区の表土掘削を開始する。10月26日、⑥-2区の空中写真撮影、測量を実施し、調査を終了する。10月30日、④-2区の空中写真撮影、測量を実施し、調査を終了する。

11月5日、③-3区の表土掘削を開始する。11月9日、③-3区の空中写真撮影、測量を実施し、調査を終了する。11月13日、③-2・④-3区の表土（畑土）掘削を開始する。11月19日、②区の表土（畑土）掘削を開始する。11月21日、③-2・④-3区の表土（下層土）掘削を開始する。11月27日、②区の表土（下層土）掘削を開始する。

12月5日、③-2・④-3区の空中写真撮影、測量を実施する。12月6日、③-2・④-3区の調査を終了する。12月13日、降雪のため、②区を三分割して調査することとする。②-1区の除雪後、空中写真撮影、測量を実施する。12月14日、②-2区の空中写真撮影、測量を実施する。12月18日、②-3区の除雪後、空中写真撮影、測量を実施し、②-3区の調査を終了する。山根Ⅲ遺跡の全区の調査が終了する。

第3章 基本層序

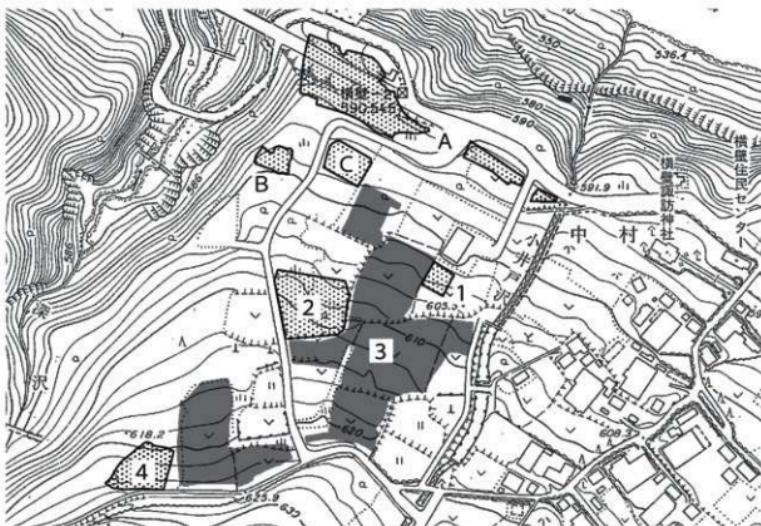
今回の発掘調査の基本層序は、第199図のA地点で確認した。A地点は、調査区の南西側に位置する⑥区の北壁で、埋没谷の左岸である。

第I層 黒褐色土：表土で現代の畑の耕作土である。粘性・しまりともない。試掘9～12・14・15号トレンチの1層に相当する。

第II層 黒色土：表土で現代の畑の下層土である。粘性・しまりともない。埋没谷部では厚くなる。いわゆる黒ボク土に相当する土層か。試掘9～15号トレンチの2層に相当する。

第III層 暗褐色土：ローム漸移層である。粘性・しまりともに弱い。ローム粒（ $\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$ ）微量含む。試掘9・10・12～15号トレンチの6層に相当する。

第IV層 褐色粘土：ローム層である。粘性・しまりともに弱い。YPk（ $\phi 0.5 \sim 1.0\text{cm}$ ）微量含む。⑥区以外は粗礫や巨礫を多含する。試掘9～15号トレンチの7層に相当する。



第197図 調査区位置図(1/2,500)

第4章 検出された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

山根Ⅲ遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字横壁字山根に所在する縄文時代早期の土坑と平安時代の陥し穴を少数検出した遺跡である。遺跡は、吾妻川流域地帯に属し、吾妻川の支流である深沢と白岩沢に挟まれた吾妻川右岸の中位段丘面上に立地する。遺跡のある段丘面の西部は、丸岩山の山裾から北流する中村沢（旧小井戸沢）によって形成された冲積錐地形であり、遺跡は中村沢の左岸に位置している。遺跡の地形は南から北へ下がる斜面地となっている。調査区は現道により東西に分かれているが、現道の東西は礫層に占められており、旧河川か埋没谷が南北方向に走行していたと考えられる。調査区の東端部でも礫層があり、中村沢の一部であったと考えられる。調査区東部の中央付近（③-2・④-3区）と、調査区西部の西端部（⑥区）で礫層ではない土層が残っており、微高地であったと考えられる。現況は調査区内が耕作地で、調査区周辺には住宅や水田が見られる。標高は598.0m～625.0mである。

今回の発掘調査は山根Ⅲ遺跡の第3次調査にあたる。調査範囲は事業地内の水田部分と宅地部分を除いた箇所にあたり、大字横壁字山根395外に所在する。調査範囲の大半は地盤が礫層であるため、遺構は中央部と南西隅の約1/5に分布している。確認された遺構は、縄文時代と考えられる土坑9基、平安時代と考えられる陥し穴4基、時期不明の陥し穴1基、土坑8基、溝1条である。出土した遺物の種類は、縄文土器、古墳前期の土師器、銅製品などで、その数量はテンパコで1箱分であった。

第2節 縄文時代の遺構と遺物

（1）土坑

SK01（第200・203図／第28表／PL 24・26）

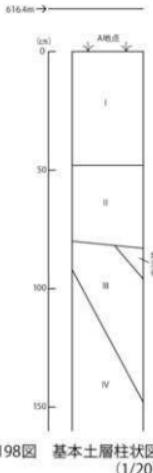
位置 1-59区D-14 重複関係 なし。遺存状態 良好。覆土 黒褐色土が基準で、人為堆積を示す。

平面形と規模 平面形は円形。規模は長軸245cm、短軸207cm、深さ47cm。 主軸方位 N-80°-W 壁面 外傾して立ち上がる。底面 丸底。 遺物 縄文土器片11点と黒曜石製チップ1点と粗礫が覆土上層からまとめて出土する。遺物のうち、押型文の施文された土器片3点を図示した。いずれも早期前半の卯ノ木式と考えられる。図示しなかった遺物には、絞糸体圧痕文が施文された土器片もみられる。 備考 出土遺物から縄文時代早期に帰属するものと考えられる。

SK08（第200図）

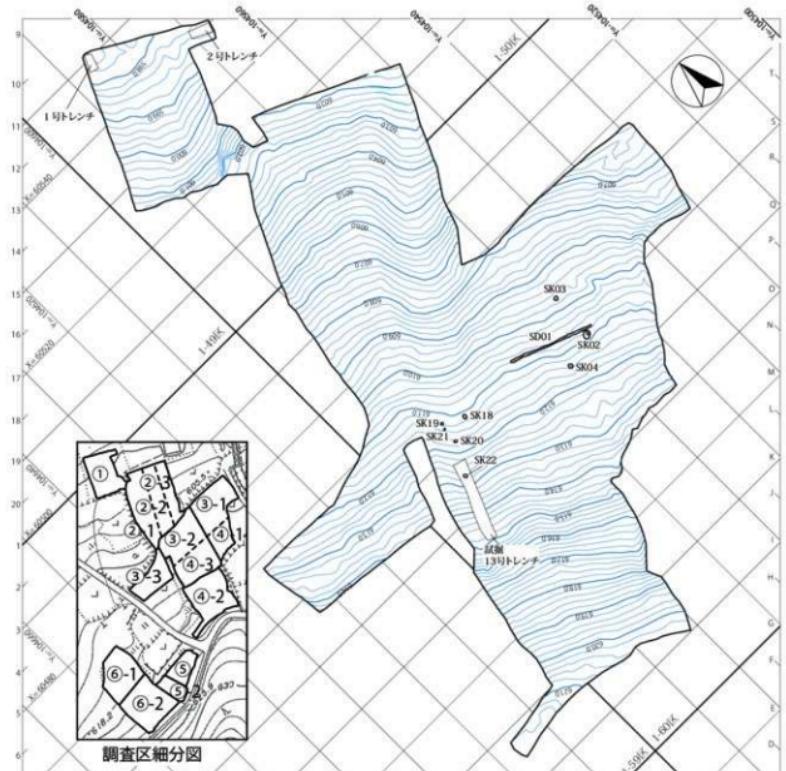
位置 1-69区F-2 重複関係 なし。遺存状態 良好。覆土 黒褐色土が基準で、人為堆積を示す。

平面形と規模 平面形は梢円形。規模は長軸122cm、短軸94cm、深さ37cm。 主軸方位 N-13°-E 壁面 段をもってほぼ垂直に立ち上がる。底面 概ね平坦。 遺物 なし。 備考 遺物はないが、形態や規模、覆土などから縄文時代とした。

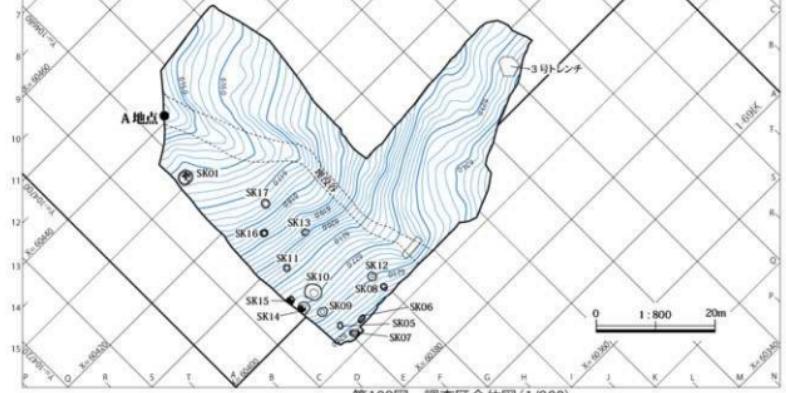


第198図 基本土層柱状図
(1/20)

山根田遺跡



調査区細分図



第199図 調査区全体図(1/800)

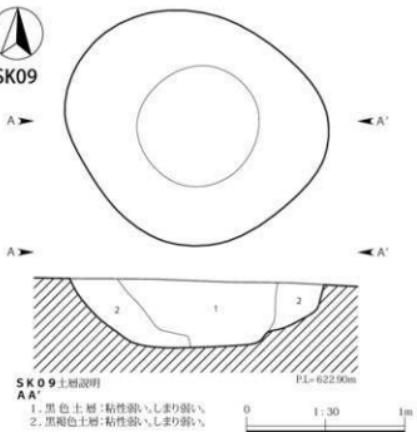
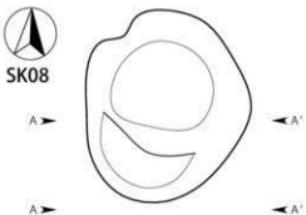
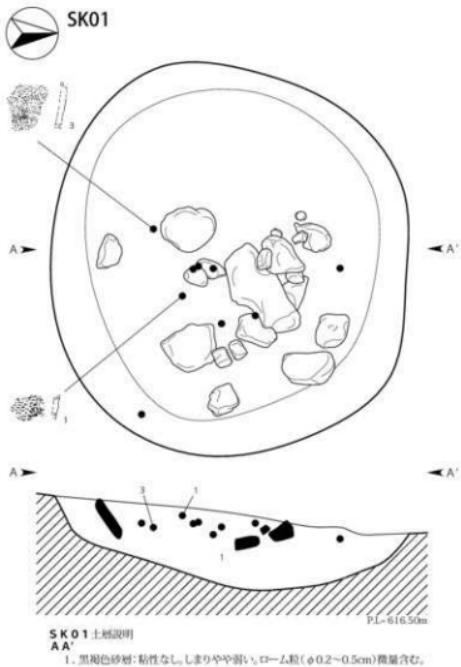
SK09 (第200図／PL 24)

位置 I - 69 区 D - 1 **重複関係**なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土と黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。

平面形と規模 平面形は橢円形。規模は長軸 166 cm、短軸 132 cm、深さ 42 cm。 **主軸方位** N - 88° - E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 遺物はないが、形態や規模、覆土などから縄文時代とした。

SK10 (第201図／PL 24)

位置 I - 59 区 E - 20 **重複関係**なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黑色土と暗褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形。規模は長軸 294 cm、短軸 250 cm、深さ 64 cm。 **主軸方位** N - 8° - W **壁面** 大きく外傾して立ち上がり、上位でほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 遺物はないが、形態や規模、覆土などから縄文時代とした。



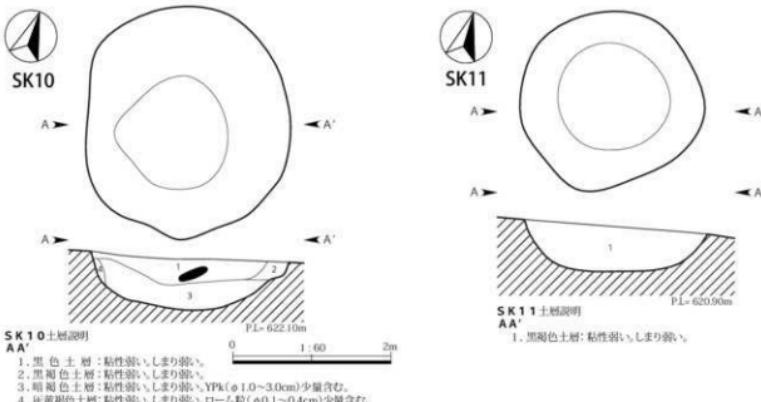
第200図 SK01-08-09実測図(1/30)

SK11 (第201図／PL 24)

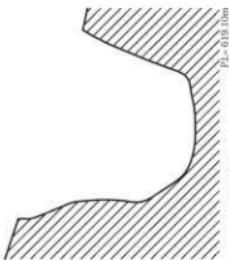
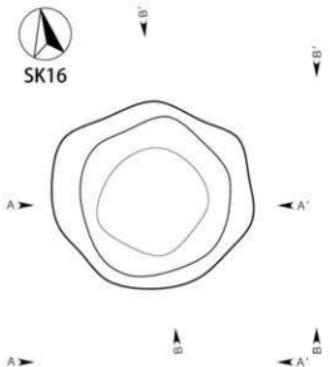
位置 I-59区E-19 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 平面形は円形。規模は長軸117cm、短軸104cm、深さ29cm。 **主軸方位** N-82°-E
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 椎ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 遺物はないが、形態や規模、覆土などから縄文時代とした。

SK12 (第201図／PL 25)

位置 I-69区F-1 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土と暗褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形。規模は長軸150cm、短軸124cm、深さ64cm。 **主軸**

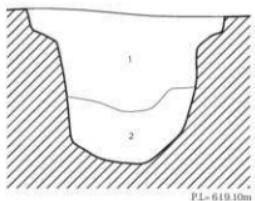


第201図 SK10～13実測図(1/30・1/60)



SK16 土層説明

1. 黒色土層：粘性弱い、しまり弱い。
2. 黒色土層：粘性弱い、しまり弱い、ローブラック $\phi 3.0\sim 5.0\text{cm}$
少量含む、YPk $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$ 微量含む。



方位 N-12°-W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、上位が大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 黒曜石製剝片1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 形態や規模、覆土などから縄文時代とした。

SK13 (第201図／PL 25)

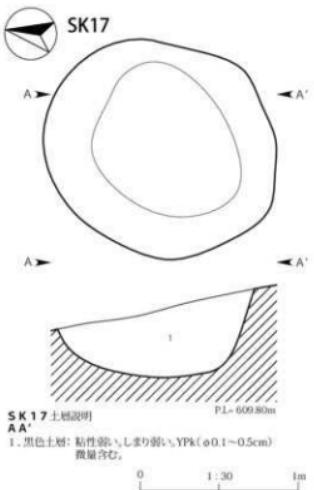
位置 1-59区F-18 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形。規模は長軸127cm、短軸102cm、深さ75cm。 **主軸方位** N-48°-W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 遺物はないが、形態や規模、覆土などから縄文時代とした。

SK16 (第202図／PL 25)

位置 1-59区E-18 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形。規模は長軸124cm、短軸92cm、深さ93cm。 **主軸方位** N-88°-E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、上端に段をもつ。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 遺物はないが、形態や規模、覆土などから縄文時代とした。

SK17 (第202・203図／第28表／PL 25・26)

位置 1-59区F-17 **重複関係** なし。 **遺存状態** 北側の壁面が削平されているが、概ね良好。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形。規模は長軸150cm、短軸120cm、深さ46cm。 **主軸方位** N-35°-E **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器片6点が出土。遺物の



第202図 SK16・17実測図(1/30)

SK17 土層説明
AA'
1. 黒色土層：粘性弱い、しまり弱い、YPk ($\phi 0.1\sim 0.5\text{cm}$)
微量含む。

0 1:30 1m



第203図 繩文時代土坑出土遺物実測図(1/3)

うち、押型文の施された土器片1点を図示した。早期前半の卯ノ木式と考えられる。 備考 試掘9号トレンチSK01である。出土遺物から縄文時代早期前半に帰属するものと考えられる。

第3節 平安時代の遺構と遺物

(1) 陥し穴

SK06(第204図／PL 25)

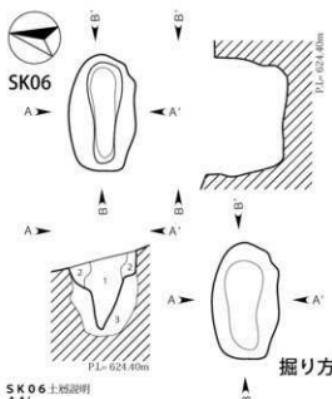
位置 I-69区E-2 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形が橢円形、下面形が長方形。規模は長軸146cm、短軸80cm、深さ90cm。

主軸方位 N-80°-E 壁面 下位がほぼ垂直に立ち上がり、上位が大きく外傾する。 底面 概ね平坦。 遺物 なし。 備考 形態や規模、構造、覆土などから平安時代の陥し穴と考えられる。

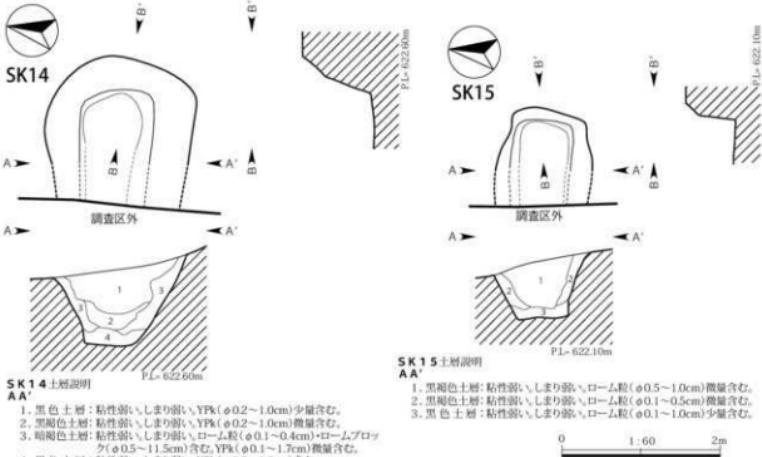
山根Ⅲ遺跡Ⅲ

SK07(第204図／PL 25)

位置 I-69区E-2 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒色土と黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形が橢円形、下面形が長方形。規模は長軸160cm、短軸100cm、深さ115cm。 主軸方位 N-33°-W 壁面 下位がほぼ垂直に立ち上がり、上位が外傾して立ち上がる。 底面 概ね平坦。 遺物 なし。 備考 形態や規模、構造、覆土などから平安時代の陥し穴と考えられる。



第204図 SK06・07実測図(1/60)



第205図 SK14・15実測図(1/60)

SK14 (第 205 図)

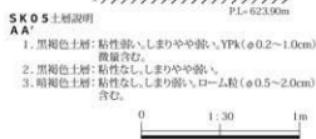
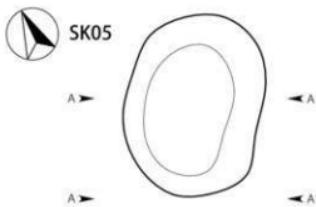
位置 I-59 区 D-20 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土と黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が円形、下面形が長方形。規模は長軸 136cm 以上、短軸 186cm、深さ 97cm。 **主軸方位** N-88°-E **壁面** 下位がほぼ垂直に立ち上がり、上位が大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 覆土中より繩文土器片 1 点を出土するが、遺構に伴わない混入物と考えられ、遺構外遺物として図示した。 **備考** 形態や規模、構造、覆土などから平安時代の陥し穴と考えられる。

SK15 (第 205 図)

位置 I-59 区 D-20 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が楕円形、下面形が長方形。規模は長軸 80cm 以上、短軸 122cm、深さ 75cm。 **主軸方位** N-83°-E **壁面** 下位がほぼ垂直に立ち上がり、上位が大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 形態や規模、構造、覆土などから平安時代の陥し穴と考えられる。

(2) 土坑**SK05 (第 206 図)**

位置 I-69 区 D-2 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形。規模は長軸 116 cm、短軸 83 cm、深さ 22cm。 **主軸方位** N-33°-E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備**



第206図 SK05実測図(1/30)

考 挖り込みは浅いが、形態や規模、構造、覆土などから陥し穴の可能性も考えられるため、平安時代とした。

第4節 時期不明の遺構と遺物

(1) 土坑

SK02 (第207図)

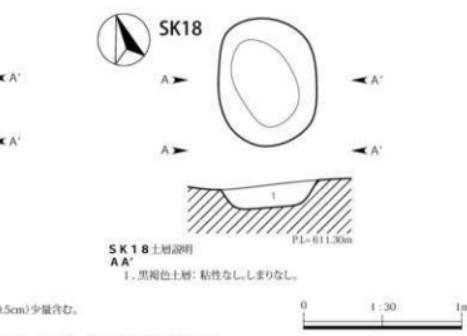
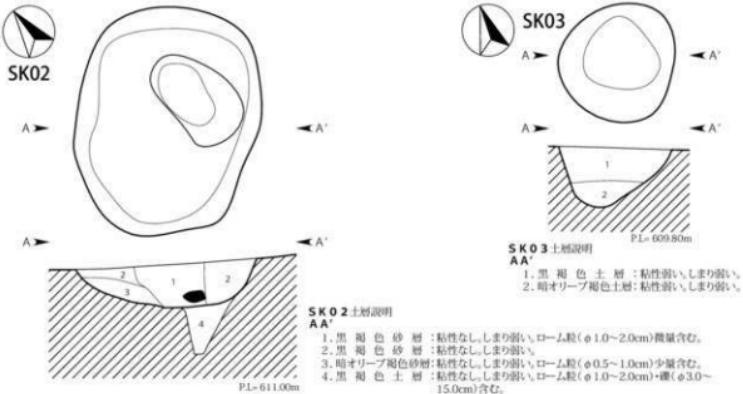
位置 I-60区I-9 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。

平面形と規模 平面形は梢円形。規模は長軸146cm、短軸110cm、深さ27cm。**主軸方位** N-45°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦。**遺物** なし。**備考** 遺物もなく、時期不明である。

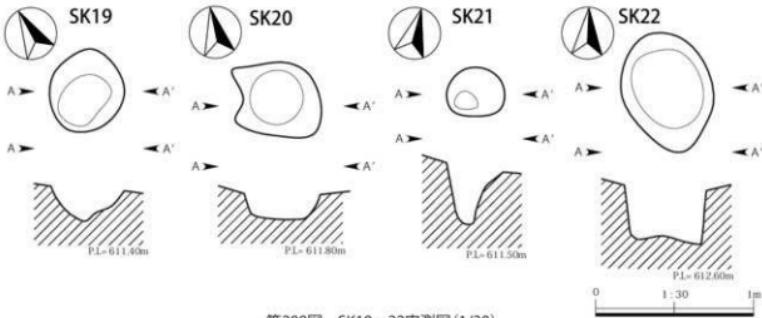
SK03 (第207図／PL 25)

位置 I-60区I-7 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。

平面形と規模 平面形は円形。規模は長軸77cm、短軸73cm、深さ37cm。**主軸方位** N-67°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦。**遺物** なし。**備考** 遺物もなく、時期不明である。



第207図 SK02~04・18実測図(1/30)



第208図 SK19～22実測図(1/30)

SK04 (第207図)

位置 I-60区H-9 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 平面形は楕円形。規模は長軸 88 cm、短軸 64 cm、深さ 26cm。 **主軸方位** N-30°-W
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 遺物もなく、時期不明である。

SK18 (第207図)

位置 I-60区D-8 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 平面形は楕円形。規模は長軸 80 cm、短軸 64 cm、深さ 14cm。 **主軸方位** N-6°-W
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 遺物もなく、時期不明である。

SK19 (第208図)

位置 I-60区C-8 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黄灰色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 平面形は円形。規模は長軸 48 cm、短軸 45 cm、深さ 22cm。 **主軸方位** N-85°-W
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 試掘13号トレンチSK05である。
遺物もなく、時期不明である。

SK20 (第208図)

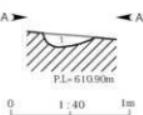
位置 I-60区C-8 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 平面形は不整楕円形。規模は長軸 66 cm、短軸 45 cm、深さ 15cm。 **主軸方位** N-40°-W
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** 試掘13号トレンチSK03である。
遺物もなく、時期不明である。

SK21 (第208図)

位置 I-60区C-8 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黄灰色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 平面形は楕円形。規模は長軸 36 cm、短軸 30 cm、深さ 36cm。 **主軸方位** N-67°-E
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 試掘13号トレンチSK04である。
遺物もなく、時期不明である。

SK22 (第208図)

位置 I-60区C-9 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黄灰色土が基調で、人為堆積を示す。



SD01 土層説明

AA' 黒色砂層：粘性なし、しまり弱い。

第209図 SD01実測図(1/40・1/80)

平面形と規模 平面形は楕円形。規模は長軸 76 cm、短軸 50 cm、深さ 33cm。
主軸方位 N-25°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央が盛り上がるが、概ね平坦。**遺物** なし。**備考** 試掘 13号トレンチ SK01 である。遺物もなく、時期不明である。

(2) 溝跡

SD01 (第209図／PL 25)

位置 I-60 区 F～I-8・9 **重複関係** なし。 **遺存状態** 部分的な残存であるが、比較的良好。**覆土** 黒色砂が基調で、人為堆積を示す。**規模** 長さ 15 m、幅 64cm、深さ 21cm。**主軸方位** N-69°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。

底面 丸底。**遺物** なし。**備考** 試掘 15号トレンチ SD01 である。斜面と平行し、東西方向を直線状に走行する。遺物もなく、時期不明である。

(3) 埋没谷 (第210図)

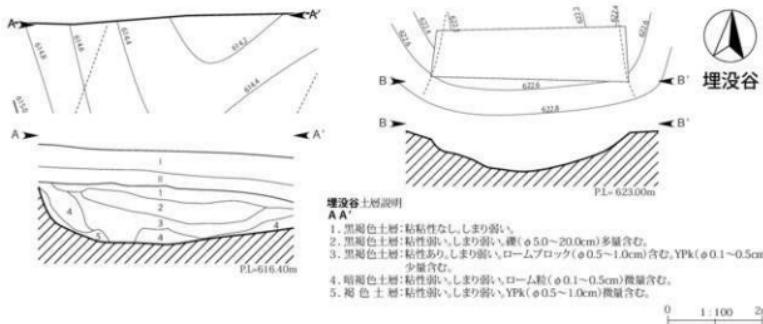
⑥区の南東から南西に向かって蛇行する谷状の落込みを確認し、埋没谷とした。埋没谷は、遺跡の西侧を北流する深沢に向かっており、深沢の支流であったと考えられる。埋没谷の左岸はローム層であるが、底面と右岸はローム混じりの礫層であり、この礫層は遺跡の大部分の基盤層である。時期は不明である。

第5節 遺構外出土遺物 (第211図／第28表／PL 26)

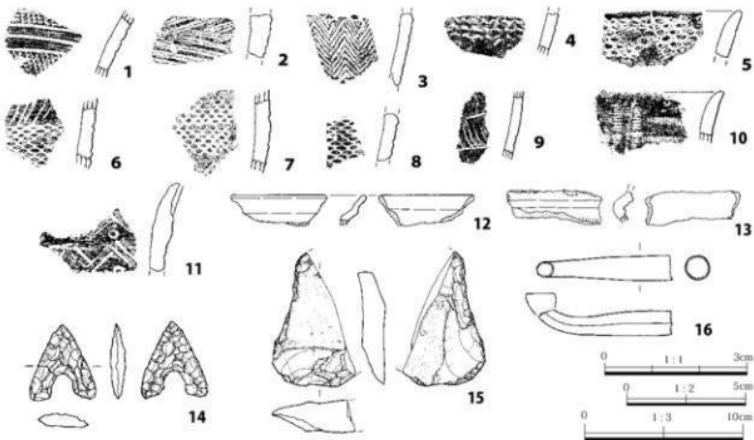
縄文時代の遺物は主に⑥区から出土し、それ以外の時代の遺物は主に③・④区から出土するなどの傾向がみられる。

⑥区から縄文土器の深鉢片 91 点、石器 8 点、近世の陶磁器片 1 点の計 100 点、③・④区から縄文土器の深鉢片 4 点、石器 1 点、古墳時代の土師器表片 7 点、古代の土師器表片 1 点、軟質陶器片 1 点、近世の陶磁器片 1 点、近現代の陶磁器片 6 点、近世の銅製品 1 点、炭化物片 1 点の計 23 点、表土などから縄文土器の深鉢片 19 点、近世の古銭 1 点の計 20 点、合計 143 点が出土している。また、SK14 から縄文土器が 1 点出土しているが、SK14 は平安時代の陥れ穴と考えられるため、遺構外として本節で取り扱う。

このうち、縄文土器 11 点、石器 2 点、土師器 2 点、銅製品 1 点を図示した(第211図)。縄文土器はいずれも深鉢片である。大半は早期に比定され、なかでも早期前半の卯ノ木式と考えられる押型文(3～8)が顕著である。いずれも⑥区から出土した。③・④区から出土した古墳時代前期の S 字型の口縁部片(12・13)も町内では出土例は少ない。



第210図 埋没谷実測図(1/100)



第211図 遺構外出土遺物実測図(1/1・1/2・1/3)

第5章 まとめ

本遺跡では、⑥区で縄文時代の土坑9基と平安時代の陥し穴4基、土坑1基が検出され、③・④区で時期不明の土坑8基、溝1条が検出された。ローム土が良好に残存している⑥区や、地盤の礫層のなかで微高地帯にローム土が残る③-1・2・④-1・3区に遺構や遺物が集中している。既往の調査でも遺構は西の深沢沿いの高地部分に集中しており、もともとこのような遺構分布であったと考えられよう。縄文時代とした土坑群は、縄文土器が出土したものが2基だけであり、いずれも早期と考えられる。なかでもSK01は、町内ではこれまで出土例の少ない押型文土器が破片ではあるが、まとまって出土しており、当該期の様相を知る上での端緒となると考えられる。陥し穴は、4基のみであるが、これまで町内や東吾妻町で発見された古代の陥し穴と同様のものであり、古代(平安時代)と考えられる。まわりに集落が見られないという点では、町営横壁土地改良事業地内の横壁勝沼II遺跡と似ている。集落に作うものと作わないものとの相違性や類似性など検討課題が多いと考えられる。

第28表 山根Ⅲ遺跡Ⅲ出土遺物觀察表